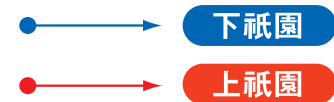


令和7年
7月26日

朝車

御神幸・御巡行図



下祇園 御神幸順

- 先 車／下正路町舟車
- 二番車／龍王町踊車
- 三番車／堀川町踊車
- 四番車／姫路町踊車
- 五番車／桜町踊車
- 六番車／豊後町楽車(御神殿奉斎車)
- 御神輿(角木町)

上祇園 御巡行順

- 先 車／古博多町踊車
- 二番車／京町踊車
- 三番車／諸町踊車
- 四番車／新博多町踊車
- 五番車／殿町踊車
- 六番車／片端町踊車
- 七番車／古魚町踊車
- 御神輿(新魚町)

- 見どころ① 八坂神社の御神殿から各祇園車に御神体を移す神事です。(二番車以降、およそ30分間隔)
- 見どころ② 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(四番車までおよそ30分間隔)
- 見どころ③ 上祇園の祇園車と御神輿が、風情あるまちなみを巡行します。
- 見どころ④ 上祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑤ 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑥ 下祇園と上祇園の祇園車13台と御神輿2基が一堂に会し、順次1台ずつ出発します。
- 見どころ⑦ 閻無濱神社の境内を下祇園の祇園車と御神輿が直線的に往復します。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑧ 中津神社の境内を上祇園の祇園車と御神輿が円を描きながら威勢よく練り込みます。(御神輿は22時まで終了。二番車以降、およそ10分間隔。)

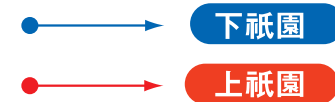
※「見どころ」の時間は目安であり、前後する場合があります。※最新情報は、公式サイトをご確認ください。



令和7年
7月27日

戻車

御神幸・御巡行図



下祇園 御神幸順

- 先 車／下正路町舟車
- 二番車／龍王町踊車
- 三番車／堀川町踊車
- 四番車／姫路町踊車
- 五番車／桜町踊車
- 六番車／豊後町楽車(御神殿奉斎車)
- 御神輿(角木町)

上祇園 御巡行順

- 先 車／古博多町踊車
- 二番車／京町踊車
- 三番車／諸町踊車
- 四番車／新博多町踊車
- 五番車／殿町踊車
- 六番車／片端町踊車
- 七番車／古魚町踊車
- 御神輿(新魚町)

- 見どころ① 上祇園の祇園車と御神輿が、風情あるまちなみを巡行します。
- 見どころ② 下祇園の祇園車が威勢よく中津駅北口ロータリーを曲がります。(二番車以降、およそ30分間隔)
- 見どころ③ 上祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ④ 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑤ 下祇園の祇園車が日ノ出町商店街内を御神幸します。
- 見どころ⑥ 上祇園の祇園車が停車位置で踊りを披露します。
- 見どころ⑦ 中津神社の境内を上祇園の祇園車と御神輿が円を描きながら威勢よく練り込みます。(御神輿は20時まで終了。二番車以降、およそ15分間隔。)
- 見どころ⑧ 祇園車から八坂神社の御神殿に御神体を御遷した後、閻無濱神社の境内を下祇園の祇園車と御神輿が直線的に往復します。(二番車以降、およそ40分間隔)

※「見どころ」の時間は目安であり、前後する場合があります。※最新情報は、公式サイトをご確認ください。



もっと中津のまちなみを
楽しみたい方に

福澤先生と
中津を歩こう!
やさしいまち歩きマップ

▼ マップを見る



祇園車・御神輿の
現在地が分かる!

- ◆ コース表・祭礼日程の掲載!
- ◆ GPS機能搭載!
- ◆ お気に入り追加で
最新情報をGET!

祭礼総合情報アプリ

「地車&太鼓」



App Store



Google Play



優艶な奉納芸能

舞踊朝車および戻車の御神幸・御巡行では、「高メ」の下に祇園車を止め、踊り等の優艶な芸能が奉納されます。これは「辻踊り」と呼ばれています。古来、悪霊などは通りの辻や町と町の境界から侵入してくるものと考えられていました。中津祇園においては、人々はそのような場所に高メを建て、御神幸で下界にお越しになった祇園の神を一時的にお迎えし、悪霊退散していただくという意味で、芸能を奉納するものと考えられます。



豪快な「やりとり」

祇園車が舵を切って威勢良く交差点を曲がることを「やりとり」といいます。自動車のようなハンドルの付いていない祇園車をすばやく、かつ円滑に動かす工夫の一つに、「操船」の合図が挙げられます。その合図とは、「面舵」「取舵」「良候」(ヨーソロー)です。中津祇園の起源が漁村の祭であることから、祇園車を船と見立てて、操船の言葉が使われてきたと考えられます。



勇猛な「練り込み」

下祇園ではスピードが魅力の「棒練り」、上祇園ではダイナミックな舵切りが魅力の「廻し練り」が行われます。棒練りはスピードだけでなく、折り返す時の綱の引き戻し方や、祇園車が止まらないように台輪の周囲に引き手が集まって押す等の工夫にも注目です。廻し練りの見所は、走りながら祇園車の方向を変える舵取です。舵取りの際に一番重要なことは、前を引っ張る綱と後ろの舵取りの呼吸を上手く合わせることにあります。